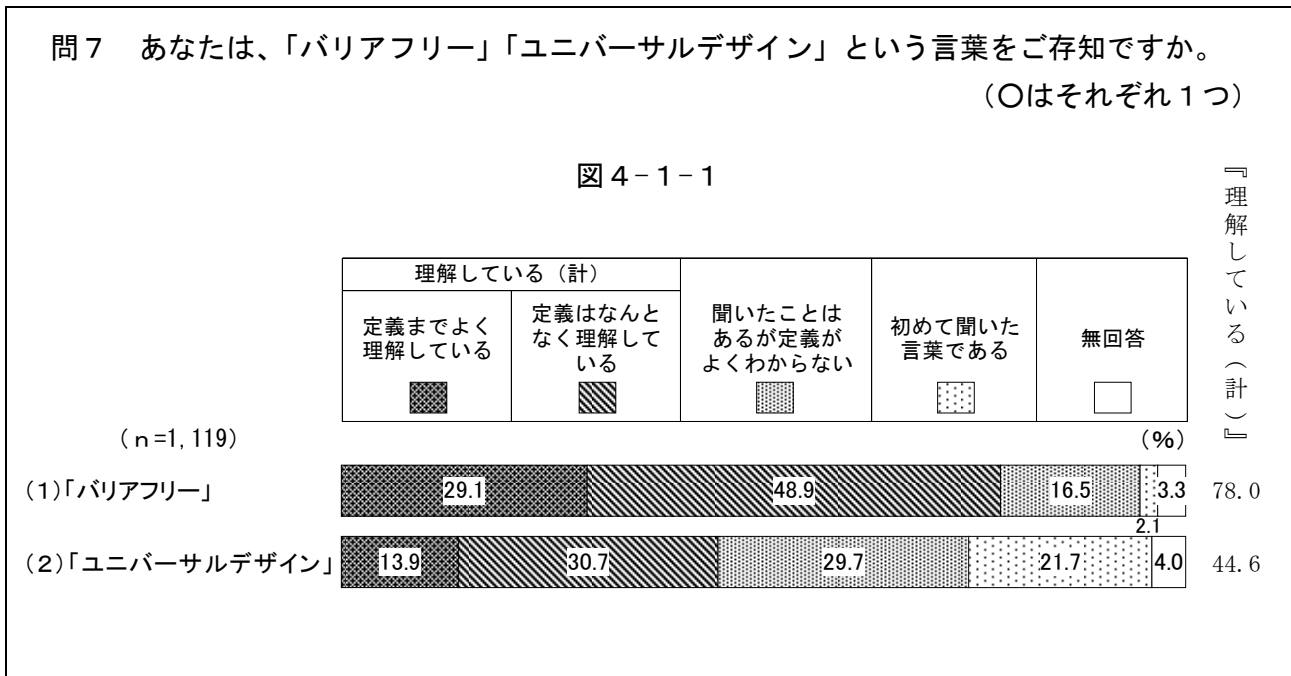


4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン

(1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度

◇「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』は「バリアフリー」が8割近く、「ユニバーサルデザイン」が4割半ば

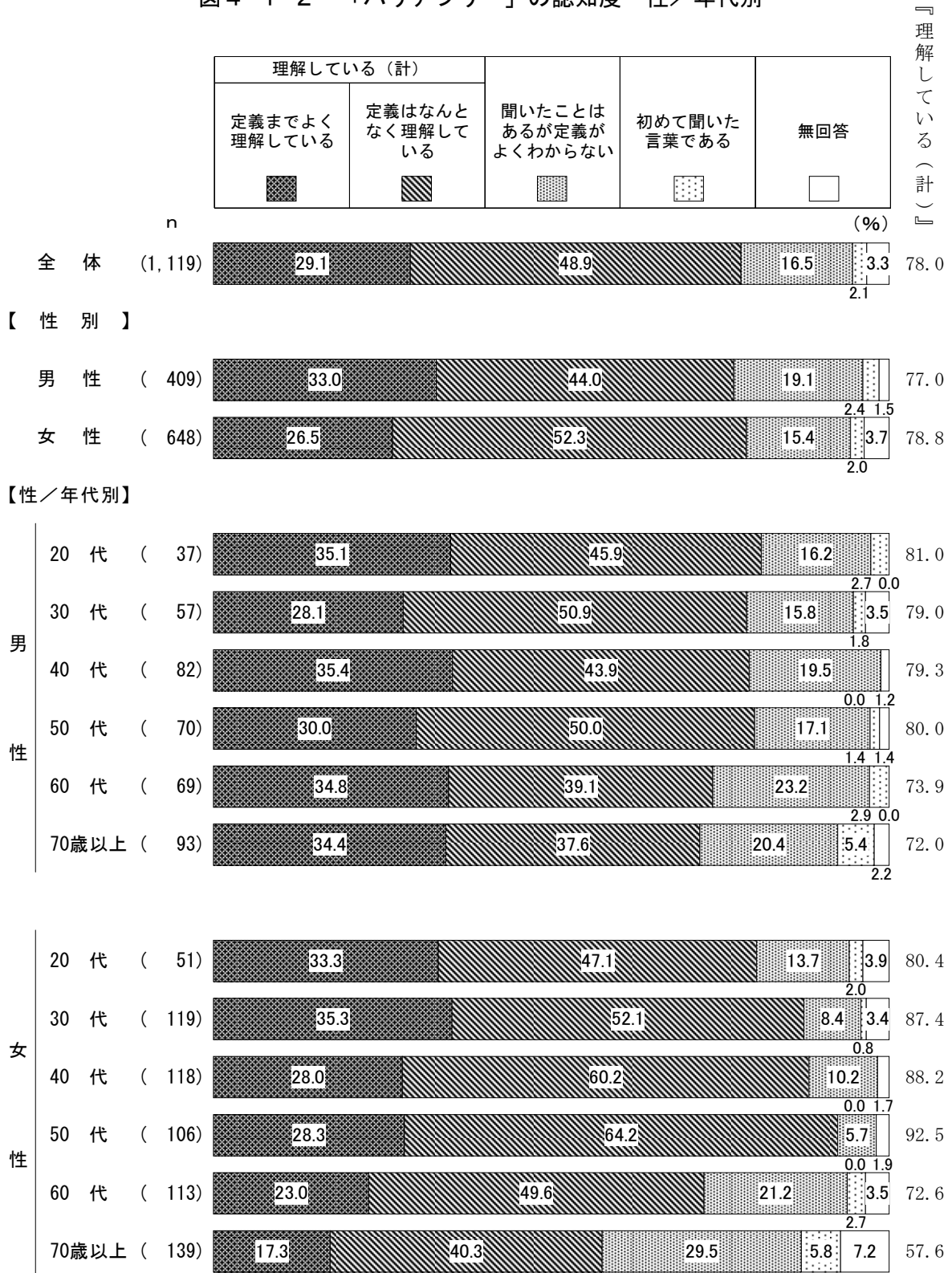


「バリアフリー」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(48.9%)が5割近くで最も高く、これに「定義までよく理解している」(29.1%)を合わせた『理解している(計)』(78.0%)は8割近くとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(16.5%)は2割近く、「初めて聞いた言葉である」(2.1%)はわずかとなっている。

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(30.7%)が約3割で最も高く、これに「定義までよく理解している」(13.9%)を合わせた『理解している(計)』(44.6%)は4割半ばとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(29.7%)は3割、「初めて聞いた言葉である」(21.7%)は2割を超えている。

(図4-1-1)

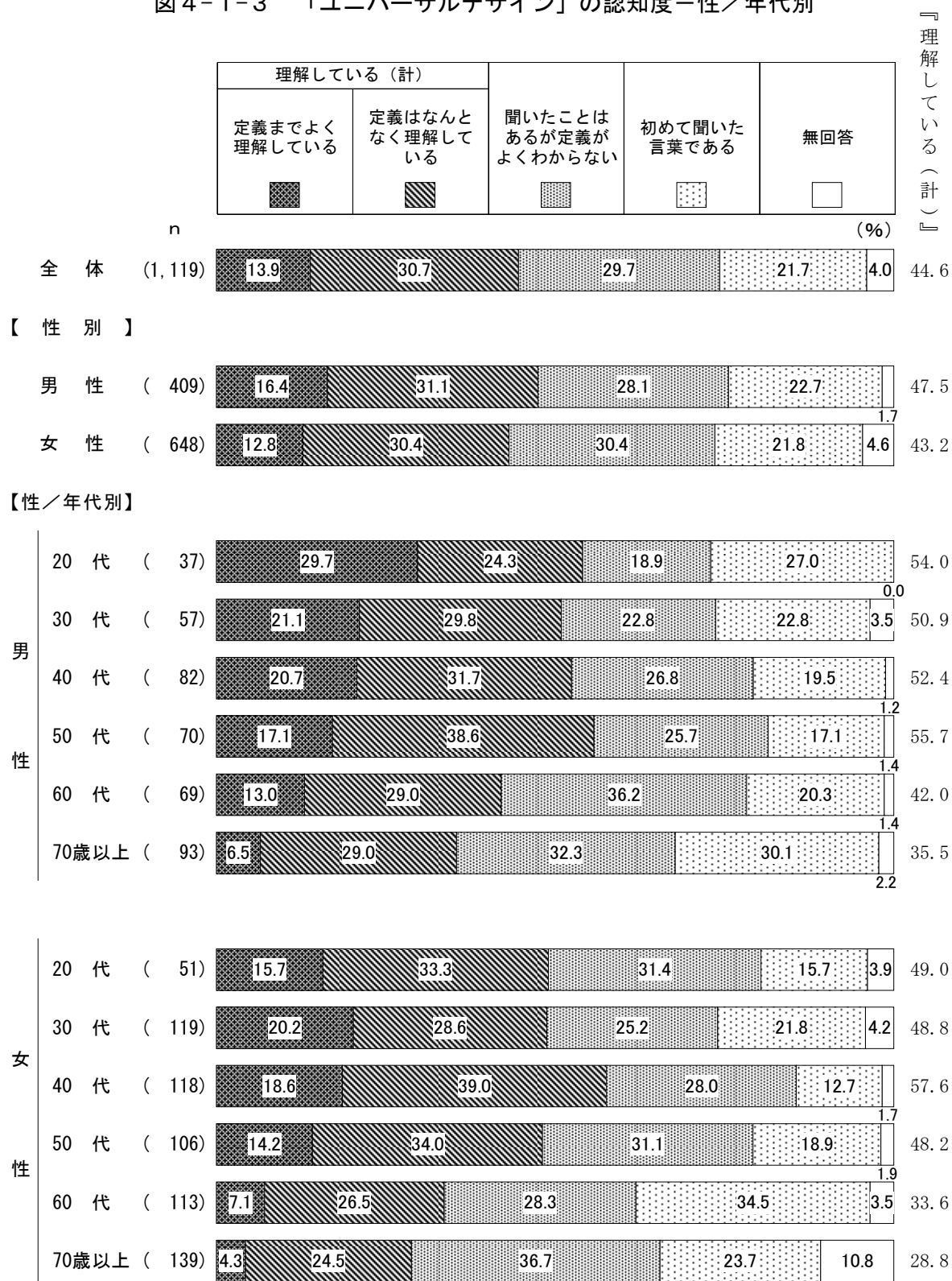
図4-1-2 「バリアフリー」の認知度—性／年代別



「バリアフリー」の認知度を性別でみると、「定義はなんとなく理解している」は女性（52.3%）が男性（44.0%）より8.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『理解している(計)』は女性50代（92.5%）で9割を超え高くなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は女性70歳以上（29.5%）で3割と高くなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度—性／年代別



「ユニバーサルデザイン」の認知度を性別で見ると、『理解している (計)』は男性 (47.5%) が女性 (43.2%) より4.3ポイント高くなっている。

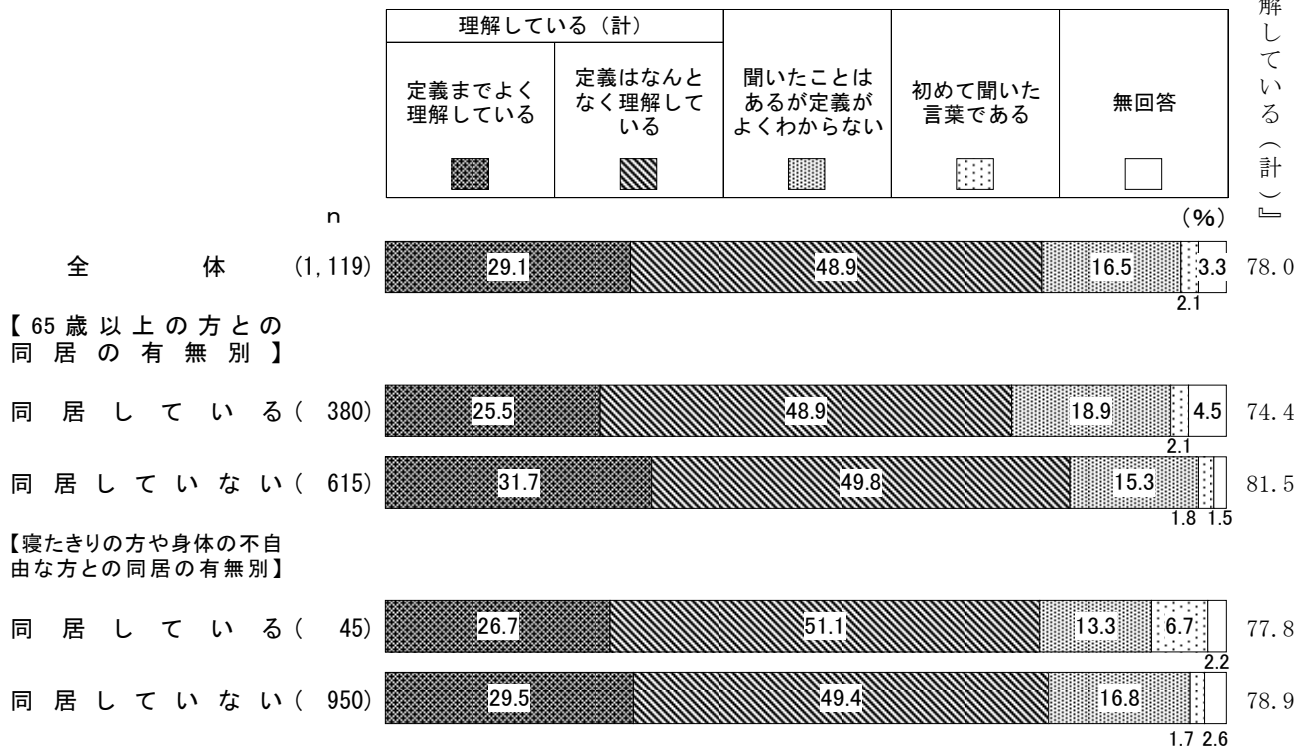
性／年代別で見ると、『理解している (計)』は女性40代 (57.6%) で6割近くと高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は女性60代 (34.5%) で3割半ばと高くなっている。

(図 4-1-3)

図4-1-4 「バリアフリー」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

『理解している(計)』



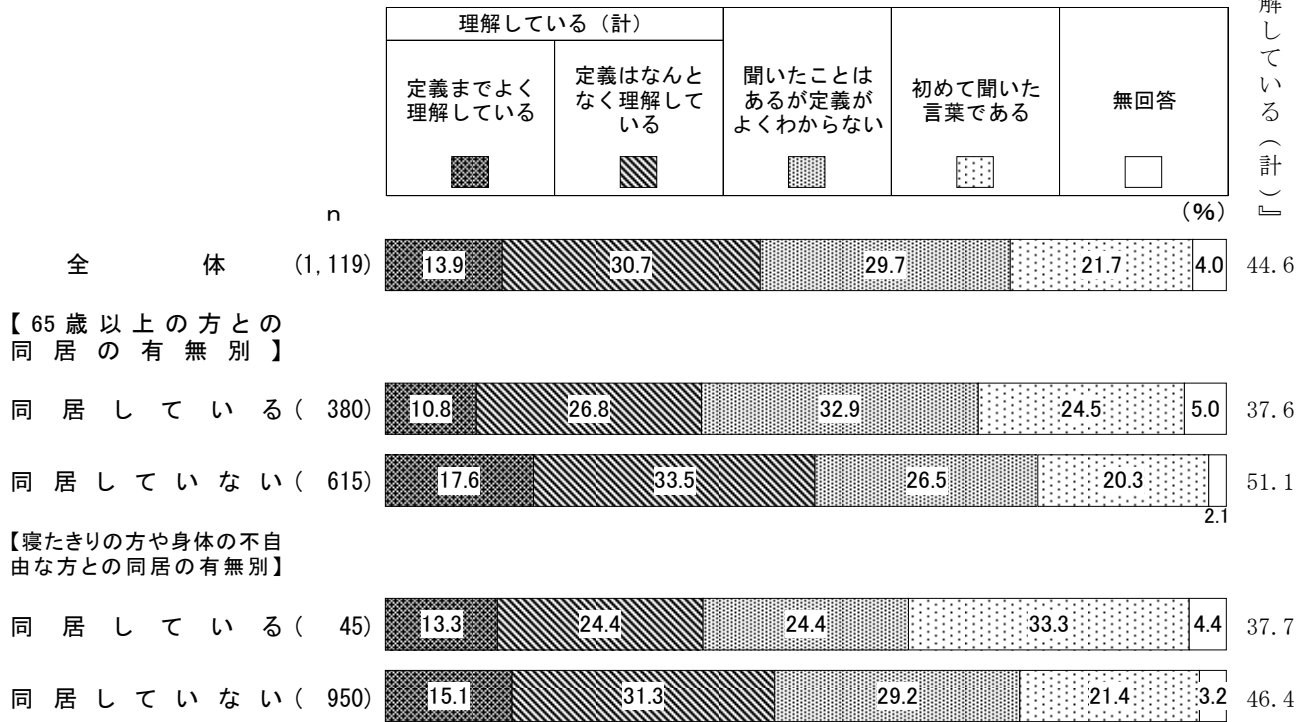
「バリアフリー」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別で見ると、『理解している(計)』は“同居していない”人(81.5%)が“同居している”人(74.4%)より7.1ポイント高くなっている。

寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別で見ると、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は“同居していない”人(16.8%)が“同居している”人(13.3%)より3.5ポイント高くなっている。(図4-1-4)

図4-1-5 「ユニバーサルデザイン」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

『理解している(計)』



「ユニバーサルデザイン」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別でみると、『理解している(計)』は“同居していない”人(51.1%)が“同居している”人(37.6%)より13.5ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は“同居している”人(32.9%)が“同居していない”人(26.5%)より6.4ポイント高くなっている。

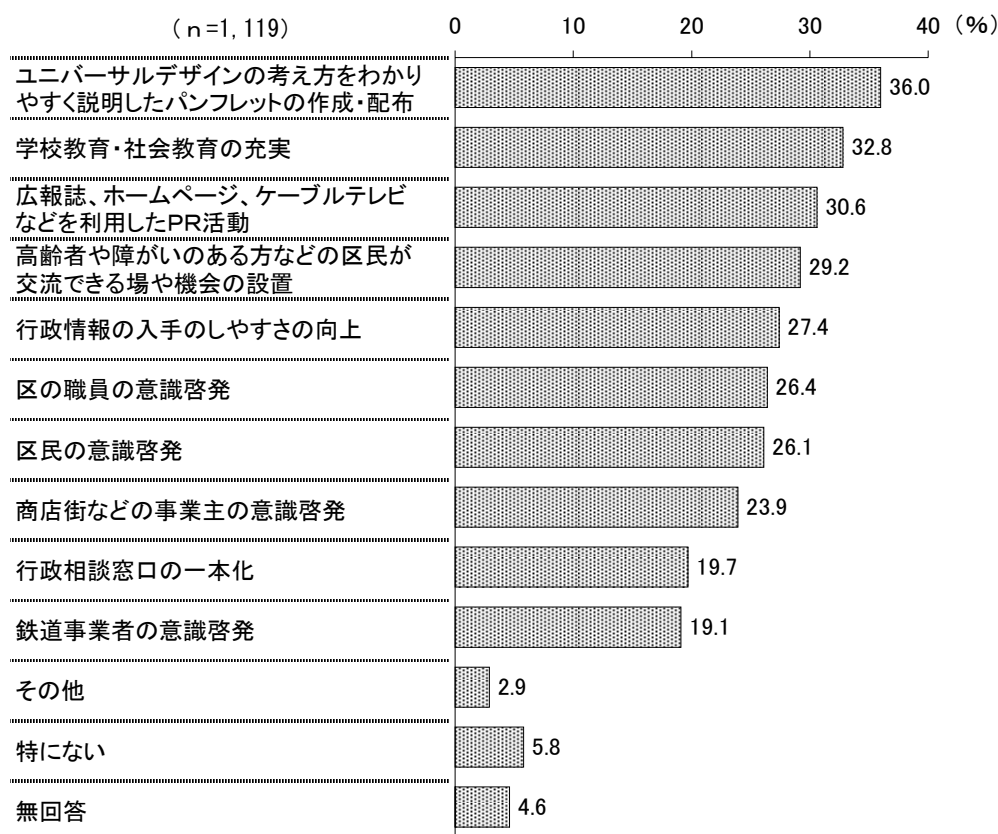
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、『理解している(計)』は“同居していない”人(46.4%)が“同居している”人(37.7%)より8.7ポイント高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は“同居している”人(33.3%)が“同居していない”人(21.4%)より11.9ポイント高くなっている。(図4-1-5)

(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み

◇ 「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が
3割半ば

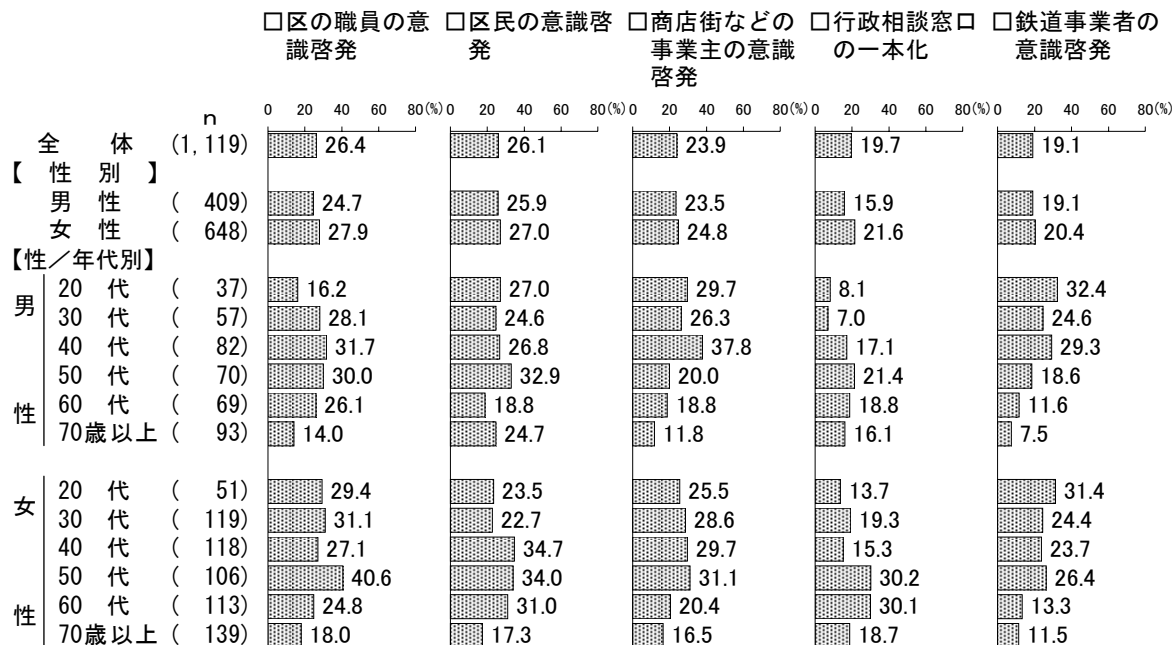
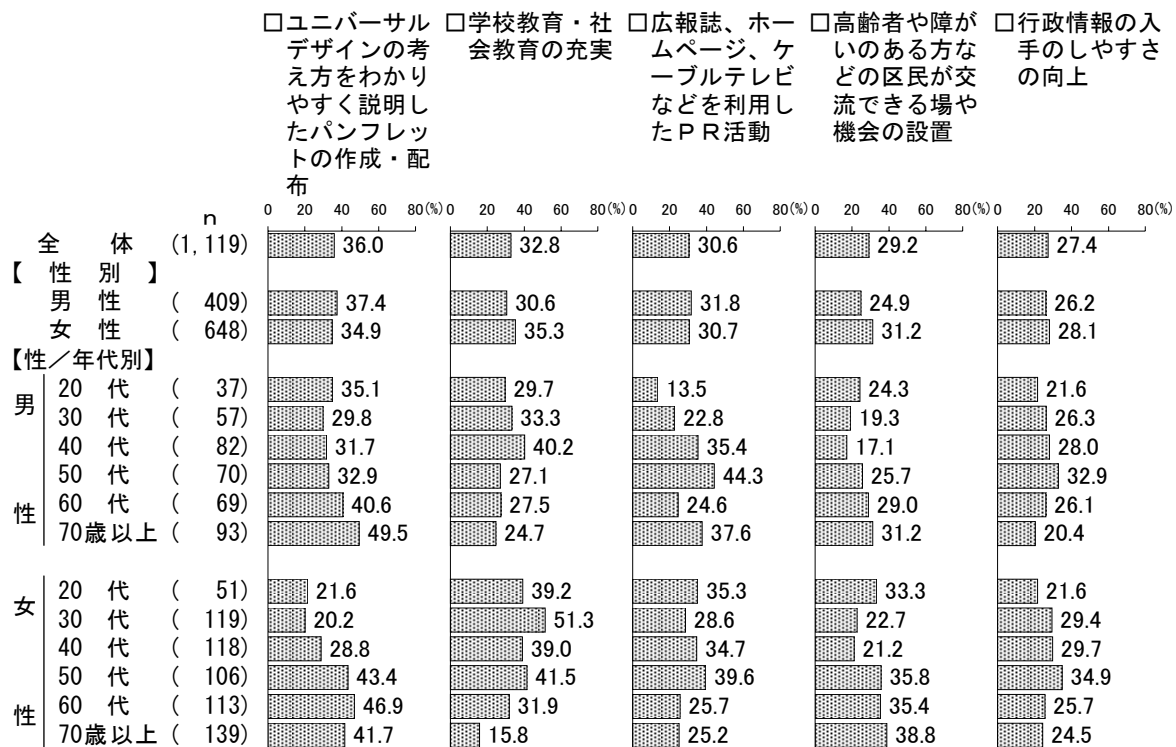
問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図4-2-1



「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組みについて聞いたところ、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「学校教育・社会教育の充実」(32.8%)、「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(30.6%)、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」(29.2%)、「行政情報の入手のしやすさの向上」(27.4%)などの順になっている。(図4-2-1)

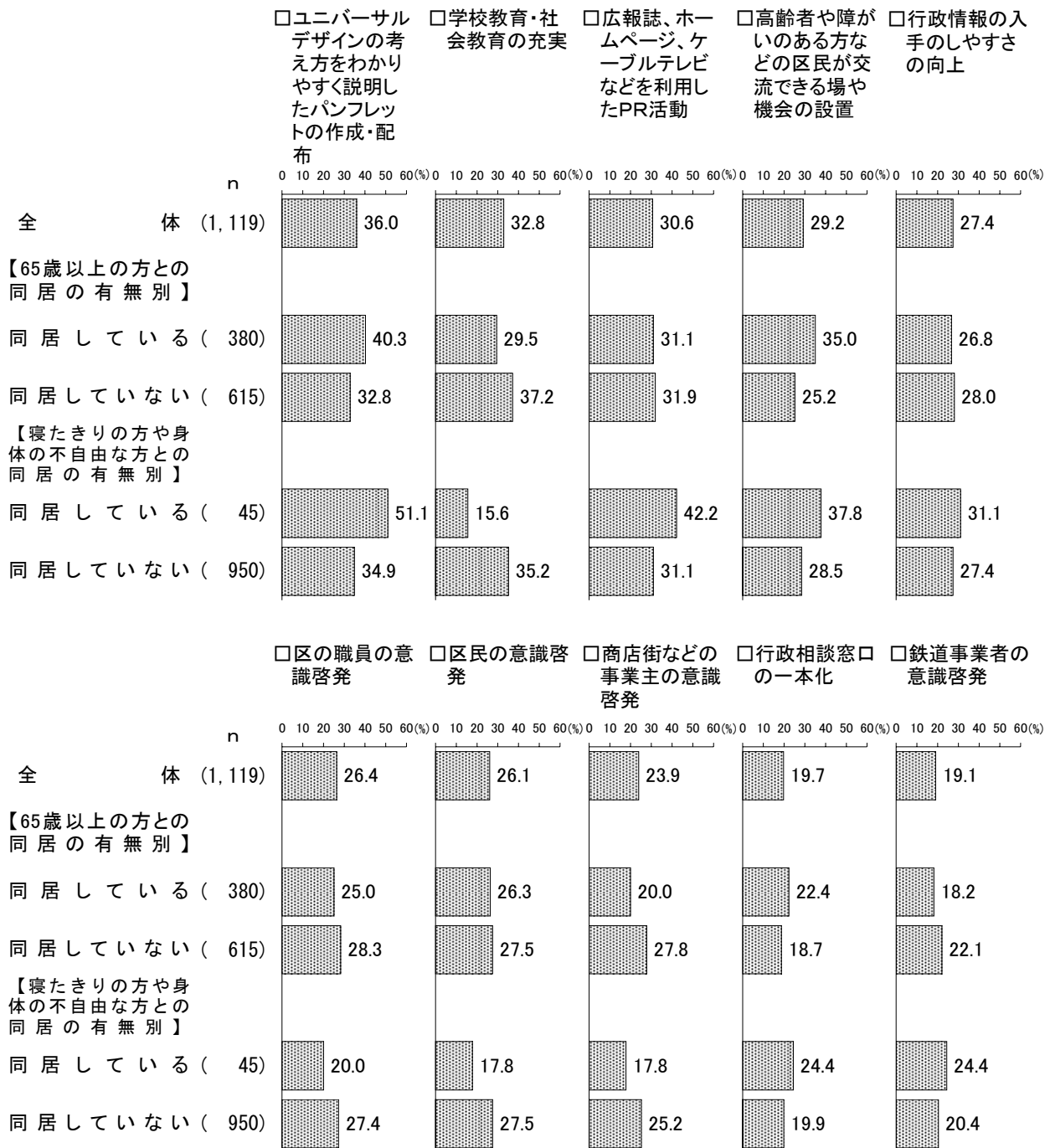
図4-2-2 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み
—性／年代別



性別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は女性（31.2%）が男性（24.9%）より6.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は男性70歳以上（49.5%）で5割、「学校教育・社会教育の充実」は女性30代（51.3%）で5割を超え高くなっている。（図4-2-2）

図4-2-3 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み
 -65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



65歳以上の方との同居の有無別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は「同居している」人（35.0%）が「同居していない」人（25.2%）より9.8ポイント高くなっている。

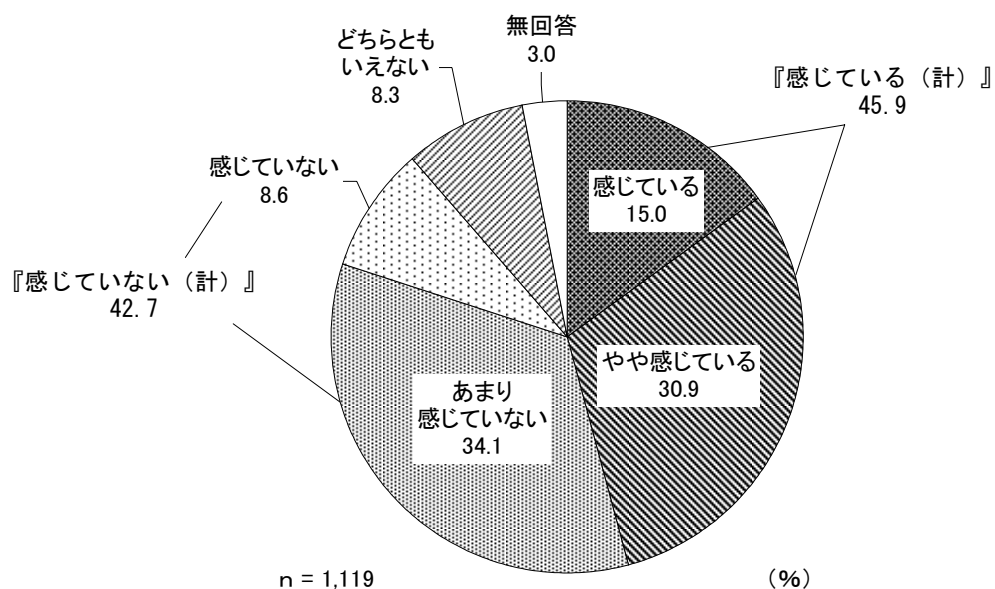
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「学校教育・社会教育の充実」は「同居していない」人（35.2%）が「同居している」人（15.6%）より19.6ポイント高くなっている。一方、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は「同居している」人（51.1%）が「同居していない」人（34.9%）より16.2ポイント高くなっている。（図4-2-3）

(3) 駅周辺のバリアフリー化

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている（計）』は4割半ば

問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

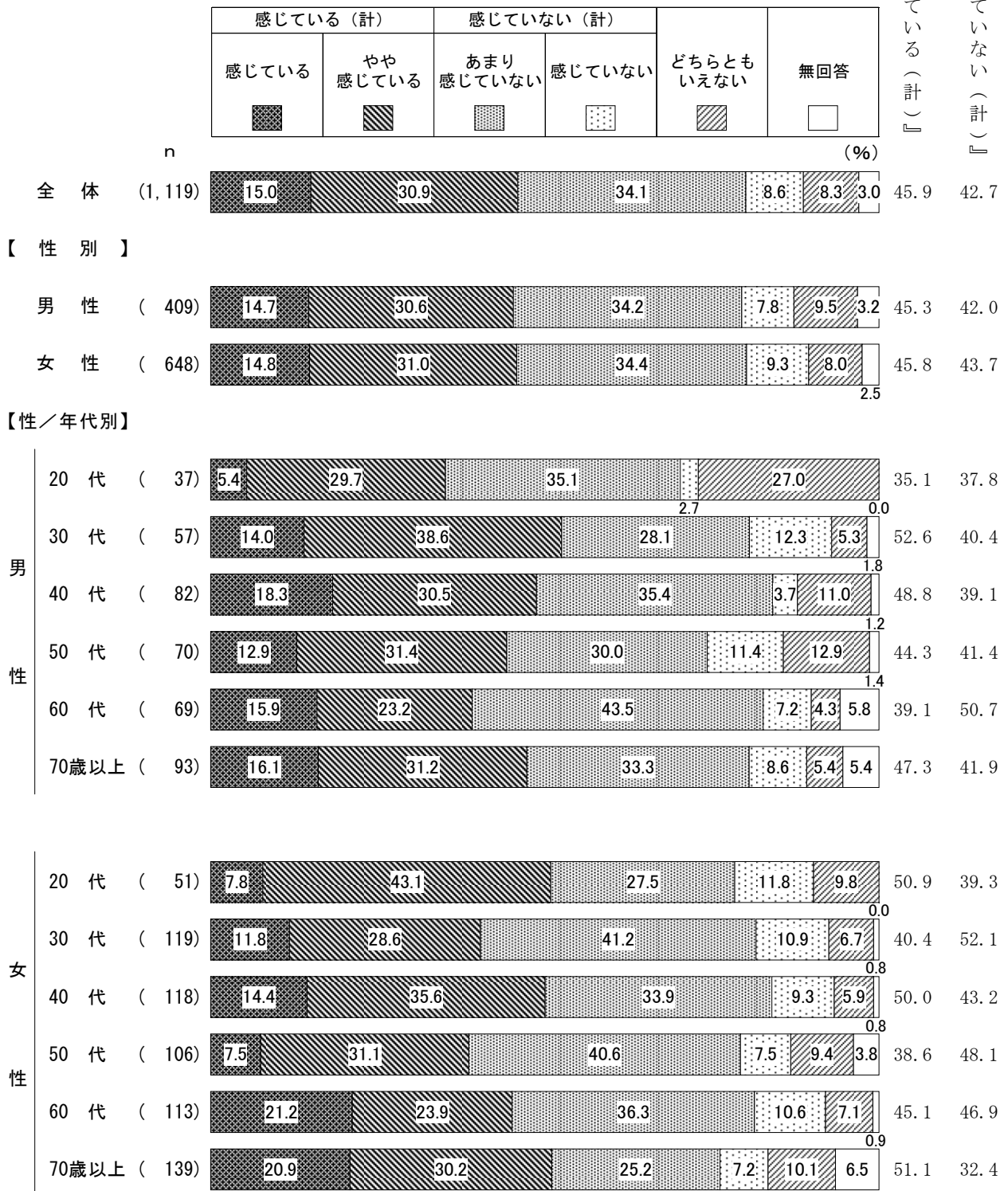
図4-3-1



駅周辺のバリアフリー化について聞いたところ、「感じている」(15.0%)と「やや感じている」(30.9%)を合わせた『感じている(計)』(45.9%)は4割半ばとなっている。一方、「あまり感じている」(34.1%)と「感じている」(8.6%)を合わせた『感じている(計)』(42.7%)は4割を超えている。(図4-3-1)

図4-3-2 駅周辺のバリアフリー化—性／年代別

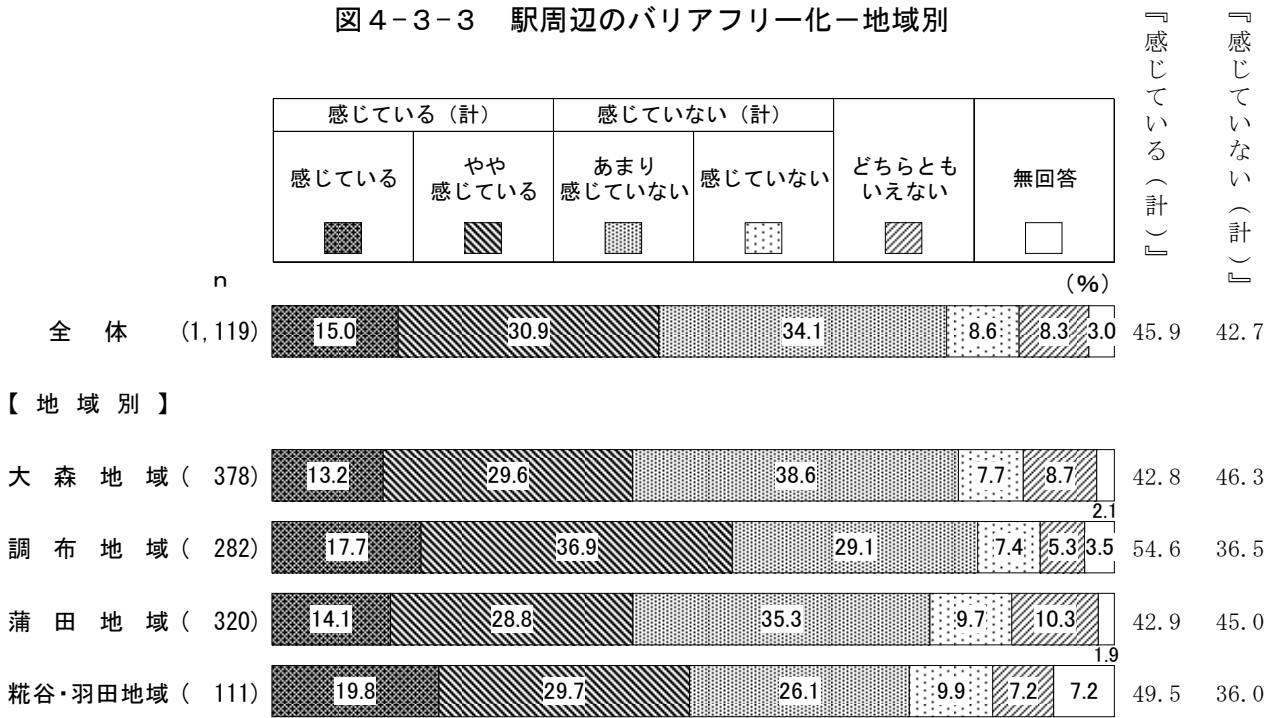
『感じている(計)』
『感じていない(計)』



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は男性30代(52.6%)、女性の20代(50.9%)、40代(50.0%)、70歳以上(51.1%)で5割台と高くなっている。一方、『感じていない(計)』は女性30代(52.1%)と男性60代(50.7%)で5割台と高くなっている。(図4-3-2)

図 4-3-3 駅周辺のバリアフリー化—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は調布地域 (54.6%) で5割半ばと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は大森地域 (46.3%) と蒲田地域 (45.0%) で4割半ばと高くなっている。
(図 4-3-3)